

平成21年野球殿堂入り表彰式

事務局長 佐藤 宏

前号に引き続き表彰式の話です。平成21年特別表彰の君島 一郎さんの表彰式が9月18日(金)、日本野球発祥の地である東京神田の学士会館で行われました。表彰式は当館の競技者表彰委員でもある胡口 和雄さんの司会で進められました。

君島さんは第一高等学校在学中、野球部で二塁手を務め攻守に活躍されました。明治時代の野球草創期の故事解明に情熱をもって取り組まれ、昭和46(1971)年に「学士会会報」で、野球発祥については諸説あるなかで、「ベースボールが日本に渡来したのは明治5(1872)年、発祥の地は現在の学士会館本館敷地である」との見解を明らかにしました。昭和47(1972)年には「日本野球創世記」を上梓され、野球渡来の経緯を皮切りに、わが国の野球の生立ちを理論的、また緻密に分かり易く紹介しました。こうしたことが高く評価され、今回の殿堂入りとなりました。



左・加藤 良三野球体育博物館理事長
右・君島氏のお孫さん 竹内 宣之氏



左・加藤 良三野球体育博物館理事長
右・君島氏次女・上月 かず子氏



表彰式は第一高等学校野球部OBの方々をはじめ、多くの方が見守るなかで、行われました。(財)野球体育博物館・加藤 良三理事長より、君島さんのお孫さんの竹内 宣之さんに記念のレリーフが渡されました。花束贈呈に続き、和気藹々とした雰囲気なかで記念撮影を行いました。最後に竹内さんよりご挨拶があり、大きな拍手が贈られるなか、表彰式は無事に終了しました。

◀君島 一郎氏のご親族と加藤理事長

《2009年 夏休み報告》

当館では毎年夏休みに小・中学生を主な対象としたイベントを行っています。今年は「野球で自由研究!」、「バット製作実演」に加え、新たに「夏休み親子ボール製作教室」を行いました。夏休み期間中には約36,300人(前年比125%)の来館者があり、イベントを通じて、多くのお客様に野球に興味を持っていただけたのではないかと思います。今後も特に野球ファンになりたての小学生や、これから野球を始めようとしている小学生にさらに興味を持っていただき、もっと野球を好きになってもらえるようなイベントを実施したいと考えております。

■ 野球で自由研究!

7月18日(土)から8月31日(月)まで館内の図書室で、「野球で自由研究!」を行いました。これは夏休みの自由研究のテーマに野球を選んだ小・中学生をサポートするもので、今年で8年目になります。今年も自由研究のために来館し、館内の展示でテーマを決めて、図書室で情報収集しながら自由研究を完成させる姿が多く見られました。

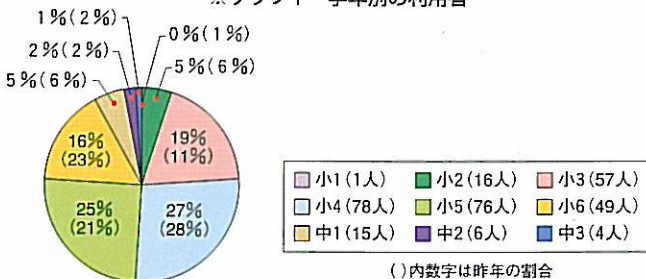


今回もボールやバット、グラブなどの野球用具に直接触って、重さや長さを計ったり出来るように実物を展示しました。また、硬式ボールの製造工程の映像など、より野球用具を知ってもらうために情報を提供しました。この他にも野球の歴史や野球場、野球用語の解説などの資料も提供しました。

夏休み期間中には多くの方が図書室を訪れ、実際の用具に触れるなどの体験をしました。その中で前年より15人多い302人の小・中学生が野球をテーマに自由研究に取り組みました。学年別では小学校3年生から5年生の3学年で、全体に占める割合は70%となり、昨年を10%上回りました。特に大きく伸びたのは小学校3年生で、昨年より26人多い57人でした。自由研究を行う子ども達が、小学校高学年から中学年へ広がる傾向をみせています。(グラフ1)

テーマ別にみると、全体の159人が野球用具についてしらべ、次いで84人が野球の歴史について調べていました。WBCで日本代表が2連覇したこともあり、WBCやオリンピックの日本代表を調べる子どもも多くいました。(表1)

※グラフ1 学年別の利用者



※表1 学年別主な自由研究のテーマ

| | 歴史 | 用語 | 野球場 | 用具 | 記録 | 国際大会 | その他 |
|----|----|----|-----|-----|----|------|-----|
| 小1 | 1 | — | — | — | — | — | — |
| 小2 | 3 | — | 4 | 9 | — | — | 3 |
| 小3 | 15 | 8 | 6 | 30 | 2 | 3 | 6 |
| 小4 | 14 | 7 | 6 | 47 | 4 | 6 | 11 |
| 小5 | 21 | 7 | 4 | 40 | 3 | 3 | 7 |
| 小6 | 22 | 5 | 2 | 23 | 1 | 1 | 5 |
| 中1 | 6 | 1 | — | 9 | — | — | 3 |
| 中2 | 2 | 1 | 2 | 1 | — | — | — |
| 中3 | — | — | — | — | — | 1 | 3 |
| 合計 | 84 | 29 | 24 | 159 | 10 | 14 | 38 |

(テーマが複数の場合あり)

■ バット製作教室



2002年からミズノ株式会社様のご協力により、夏休みイベントを開催しています。今年は8月18日(火)、19日(水)の2日間、ミズノテクニクス渡邊 孝博クラフトマンによるバット製作実演を殿堂ホールで行いました。

今年もホームページなどで開催情報を調べて来館されるお客様が多数見られ、熱心にメモを取り、写真を撮影していました。渡邊クラフトマンは、自由研究目的の小学生にも分かりやすく3種類の木材の性質やバット材になるまでの工程などを説明して下さったほか、実演後の質問コーナーや各回4人ほどの小学生にはやすりがけ体験も行っていただきました。

■ 夏休み親子ボール製作教室

8月20日(木)には昨年までのグラブ製作教室にかわり「夏休み親子ボール製作教室」を初めて開催しました。7月中旬に当館ホームページで参加者を募集し、169通の応募の中から抽選で選ばれた20組40名の親子が参加しました。

ミズノインダストリー阿山から来ていただいた3名の指導のもと、1針1針一生懸命硬いボールに針を通していました。各組とも約1時間でボールを完成させ、「自分で作ったボール」をお持ち帰りいただきました。



殿堂入りの人々を語る (25)

山下 浩一 (山下 実氏 長男)

「あの頃の」

連なる六甲山脈の足下へ 由緒あるひろがり 往時生田神社社中の杜
 託された子もりの筈の幼子を 境内の老樹のもすそへ運んでゆわえ
 ひたすら球遊びに没入 打ち興じていたある野球少年の はるかなる幻影と滄沓
 長じて大正、昭和にまたがり 強打をほしいままに球界を横断 席卷した怪物
 史上最高ともいえる 左利きスラッガーの行方
 当時まだ劣悪に近い事情の 飛ばない硬式ボールを間髪一閃 鋭い腰の回転でとらえる
 独特の遠心力ある拋物線のヒーロー 称して和製ベーブ・ルース
 若者のメッカと化してひしめく 甲子園、神宮球場を嚆矢に
 短いよき時代のノスタルジックな栄光と
 詩人清岡卓行が綴る 実満戦の晴れ舞台 昔日の極み
 惜別 大連球場におけるあの勇姿 転じて昭和十年代
 阪急ブレーブスの本拠地 西宮球場を殿軍とした 数々のおぼろなる伝説 噫
 さりながら一方 この野球人が選んだ人生の身上と迷彩の球種
 世渡りを暮った愚直一徹の痛み 淡白な苦渋へ蠢く実存の不毛
 非土着性ともいべき生業 そして 矮小なるこの国の
 戦を挟んで繰り出す 様々なボールの変化に対する —
 あたかも向田邦子のえがく 奇人にも一脈相通じる
 索然たる小説像を彷彿させながら 平成に移るや 間もなく飄然と
 その不器用な 波乱に満ち満ちた生きざまの幕を 夢幻として静かに下ろしていった
 その稀有とも思える異才をつとに
 看破し ことのほかいとおしんだ 六代目菊五郎の過ぎ去った庇護と
 大いなる国体の御代との決別へ 去る者 日々疎しとはいえ
 大正、昭和を隔て 遮るものは 往く空のごとく
 卒然と足早に弾んで移ろい易いが 知る人ぞ知る いまも時空を超え
 僅少ながら全国に散在する 熱烈なファンによる
 惜しめない拍手とありがたい声援が 泉下の実道居士の韜晦
 かつて含羞のしわぶきを小さく放って ボックスに入ったときのように



1987年殿堂入り
山下 実氏レリーフ

まずは拙詩を掲げ、以って父・實の追想としたい。

ところで太平洋戦争真っ只中、ガダルカナル島上陸作戦の輸送船へ魚雷が命中、海上に放り出され、九死に一生を得て生還した父の戦後の1つに、高校野球の指導育成があったことは、余り知られていないであろう。

もっともその何れの期間も非常に短いものだったし、目立つような戦績を挙げたわけでもなかったが、各地にまたがる県立3校と私立1校が対象だった。父の知名度を多少買って下さって擁立されたものに外ならず、昨今のような学校、OB会、父兄が挙って一体となった組織的なそれではなかった点はいうまでもない。当然基盤は極めて低く脆弱だったにも拘わらず、父はその持てる力を少なくとも出しつくしたように思われる。

殊に最後の県立校は全くの無名だったのに僅か数ヶ月の短期間で、秋の地区予選を連戦連勝し、決勝まで進み、惜敗したのは思えば父の勝負運の賜物の1つではなかったかと追認される次第である。

また戦後経済の基盤がまだ低かった時代に、東大阪に存在していた女子プロの育成にも家族と離れて当たったことは殆ど知られていないに違いない。

後年、父の死を知って哀悼の意を表してくださった何人かがいた筈だが、栄枯盛衰刻々移り去る時代に、ベースボール発展の底辺で、父が細々ながら努力を惜しまなかった点は、困窮の奈落にあった家族にとって少なからざる救いであったと今にして回想される所以に外なるぬからである。

冬の日の昭和の過ぎし一日かな パンドラの冬の昭和の箱を閉づ
 ものふのあわれと思しかわたれどき しゆくしゆくベースボールの夢
 まぼろしの東風さわやかに撫で行けり 大連港よアカシアのはな

もの
知ってほしいこんな資料 (68)

『OUTDOOR GAMES』と『西洋戶外遊戯法』



左：『OUTDOOR GAMES』 右：『西洋戶外遊戯法』

今回は、日本初の洋式スポーツ書といわれる『OUTDOOR GAMES』と『西洋戶外遊戯法』についてご紹介します。

『OUTDOOR GAMES』著者は東京大学予備門のお雇い外国人教師F・W・ストレンジ。明治16(1883)年6月に現在の丸善から出版されています。日本で出版されていますが、すべて英語で書かれています。(奥付けのみ日本語) ストレンジ氏はイギリス人ですが、日本での野球試合記録も残っています。

Base Ballは34項目(32種目とTRAININGとTHE LAWS OF ATHLETICS)中最大の10ページを割いて紹介されています(クリケットは7ページ)。序文で参考文献として『The Boy's Own Book』『Every Boy's Book』と共に『Spalding's Baseball

Guide』をあげており、Base Ballの項目では、『Spalding's Baseball Guide』のルールが一部ですが文章もそのまま掲載されています。何年度のガイドを参考にしたか明記されていませんが、7ボールで出塁(米国のルール変遷史では1881~1883、1886年)投球間は50フィート(1881年から)になっており、さらに打者が走者になる際の記述には、1882年から変更された表現をそのまま使用している箇所があるため、1882年のガイドを見ていると考えられます。非常に直近の情報を持っていたと言えます。

一方、『西洋戶外遊戯法』は下村 泰大編集で明治18(1885)年3月に出版されています。『戶外遊戯法』(坪井玄道、田中 盛業編)より1ヶ月早く、日本語で出版された初のスポーツ書といわれています。この本の冒頭にある凡例で、『OUTDOOR GAMES』を骨子とし、他の諸書の記述を折衷して抄訳編集したと明記されています。徒手遊戯、弄球遊戯、争強遊戯と分類されていますが、取り上げている項目は「クロッキー」を除いてすべて『OUTDOOR GAMES』と重なります(34項目中8項目は取り上げられていないので「クロッキー」を加えて全部で27項目)。また、同じく凡例で遊戯名は英語で表わし、その下に訳語あるいは注釈を付けるとされ、その注釈は直訳もあればその意義を訳したり、名称の翻訳ではなく遊戯全体についての訳や我が国在来の遊戯に似ているもの名前を取って訳語にあてると書かれています。その結果「ベース、ボール」(打球おにごっこ)となっています。

「ベース、ボール」は第二編 弄球遊戯に登場し、最大の20ページを割いています(クリケットは9ページ)。内容を見ると、『OUTDOOR GAMES』よりは詳しく紹介されていますが、投球間15ヤード(45フィート)投手ボックス(投手板になる以前のもの)4フィート×2ヤード(6フィート)となっており、米国でのルール変遷史に当てはめてみると1867、68年のルールとなります。『OUTDOOR GAMES』がすでに投球間50フィートで1882年のルールが反映されていると考えられるのに対して、15年ぐらゐも古いルールです。他の項目は『OUTDOOR GAMES』の翻訳そのものだったり、関連性が多い記述になっていたりします。それに比べて野球だけが全く別ものになっていて驚かされます。

なぜ、野球だけ違うのでしょうか? 1868(明治元)年ごろのルールを使った野球が当時行われていたのでしょうか? 1868年ごろのルールがいつ紹介されていたのでしょうか? それは英語なのか、日本語に訳されたものなのか、出版されたものなのか、あるいは一部の人がただ知っていた「虎の巻」のようなものだったのか…日本野球の創成期には、まだまだ面白そうな事がたくさんありそうです。

学芸員 新 美和子

コラム／博覧・博楽 (32)



“記録の神様”が出した命令は連盟通い

前藤 衛 (野球体育博物館維持会員)

今年の5月、宇佐美 徹也さんが亡くなりました。76歳でした。1956 (昭和31) 年にパ・リーグの公式記録員になり、64 (昭和39) 年に報知新聞社に入り、コラム「記録室」を連載。記録部長を歴任して、89 (平成元年) 年に日本野球機構のBISデータ本部長に就任し、コンピュータ集計によるシステム化に尽力した“記録の神様”といわれた人です。「プロ野球記録大鑑」をはじめ、評判をとった著書も多くあります。

プロ野球界に大きな功績を残された、その宇佐美さんとの出会いは報知新聞社時代の68 (昭和43) 年でした。巨人がV9を果たしたときの4年目で、新人の高田 繁 (現東京ヤクルト監督) が日本シリーズでMVPを受賞した年です。以来、亡くなられるまで、上司と部下を越えた愛情あふれる指導をしていただきました。

思い出はいっぱいありますが、やはり連載「記録室」を初めて書いた頃のことを忘れられません。それまでの入社当初は先輩が作った記録集の追加をしたり、記録集計がやっとなで、原稿を書くなど、とてもムリ。「記録室」のデビューは入社4年目でした。“記録の神様”の指導は厳しいものでした。何年ぶり、何度目の記録を見つけただけではダメなのです。スコアカードから拾いだし、ほとんど徹夜状態で作った3球三振や、猛打賞のランキング表も「おもしろくない」の一言で終わりです。何か内容が足りなかったのでしょうか。「スコアカードが語る。よく考えろ」という、教えの通りやっているのですが、12歳年下の私には、宇佐美さんが何を要求しているのか、よく分かりません。叱られるのが怖いから必死になって原稿を書くのですが、「ダメ、ダメ、ダメ」の連続でした。

そんなある日「明日から連盟通いをしろ」の命令が出ました。いつまでたっても進歩しないダメ男に「記録部の人達に話を聞けば良い原稿が書けるようになるかも知れない」で始まったことらしい。当時はセ・リーグが銀座朝日ビルの3階、パ・リーグが9階にありました。古いスコアカードに、全試合の成績を集計した全選手のカードがそろっている記録の宝庫です。気の利いた話をすれば記録部の人達がのってきてくれます。多くの試合を見てきた人達ばかりだから、経験豊富。「記録室」を書くときにもってこの話を聞き、記録の宝庫で資料集めです。連盟の休みと自分の休み以外のほとんど毎日。昼過ぎから夕方まで連盟に通い、社に帰ってナイターの「記録室」書きという一日が始まりました。

ベースは落ちたものの、2年目以後も連盟通いは続きました。当時記録員だった五十嵐 義夫さん (のちのパ・リーグ記録部長) などは、一緒になって調べ物に参加してくれたりしました。猛打賞の最多回数は張本 勲の通算251回。張本は、ONが1度ずつしか記録していない20試合以上の連続安打を3度。初回先頭打者本塁打の最多記録は福本 豊の通算43本、延長戦での最多本塁打は野村 克也の通算14本。1番から9番までの全打順本塁打を記録した第1号は古屋 英夫…。年を重ねるごとに資料がふえて行きました。“短足の進歩”に宇佐美さんのお怒りの声は少なくなったような気がします。「4番最多出場は野村 克也2259試合の記事は良かったゾ」と、千葉 功パ・リーグ記録部長。セ・リーグの藤森 清志記録部長には「三塁手の最多連続無失策記録は長嶋 茂雄が69 (昭和44) 年に作った214守備機会無失策でよいゾ」のお墨付きの言葉をもらいました。連盟に通い、苦勞してさがした記録を褒められたり、認定されたりで嬉しくなったことを思い出します。

もうひとつ、公式記録員の人達に驚かされたのは、ルールの質問に対しての答えの速さです。いっぱい書かれてあるルールブックのなかから、質問の箇所を引っ張りだすスピードの速さにはびっくりです。記録の判定に困ったプレーがあったら、1度聞いてみてください。ちゃんとした質問なら瞬時に答えてくれるはずです。



こんにちは図書室です



「明治神宮大会報告書」

明治神宮大会は全国選抜中等学校野球大会（現在の春の甲子園大会）と同じ大正13（1924）年に第1回大会が行われました。主会場はこの年に明治神宮外苑に完成した陸上競技場でした。今回はこの大会報告書を第1回大会を中心にご紹介いたします。



この明治神宮大会は“総合スポーツ大会”として大正13（1924）年から昭和18（1943）年まで14回行なわれました。その間、大会名称は「明治神宮競技大会」から「明治神宮体育大会」、「明治神宮国民体育大会」、「明治神宮練成大会」と変わり、主催者も内務省から明治神宮体育会、厚生省へと変わりました。第1回の競技種目数は野球や陸上競技、剣道や柔道など15種目でしたが、その後冬季大会や夏季大会などが加わり、大会ごとに種目数が変わりました。野球は第1回大会から第13回大会まで行なわれました。

『第1回明治神宮競技大会報告書』によれば、野球は大学生を中心としたクラブチームの部と中等学校の部の2つに分かれ、それぞれトーナメント方式で行われました。試合は10月31日から11月2日までの3日間の日程で行われました。明治神宮野球場が完成したのは大正15（1926）年のことなので、この時は早稲田大学、立教大学、目黒田園都市グラウンドの3ヶ所で実施されました。

大学クラブの部に出場したのは、稲門・セントポール・三田・駿台・法政・帝大の6チームで、中等学校の部では、この年の夏に甲子園で行われた全国中等学校優勝野球大会（現在の夏の甲子園大会）に出場した、広島商、松本商、神港商、松山商、早稲田実、大連商、和歌山中、愛知一中の8校でした。報告書にはこれら全12試合のイニングごとの経過が文章で記載され、各試合のスコアカードも併せて掲載されているので、1打席ごとの結果を追うことができます。

大学クラブの部の決勝戦は稲門対帝大で争われ、後に殿堂入りをする谷口 五郎投手が3安打完封10奪三振の活躍で、稲門を優勝へ導きました。中等学校の部の決勝戦では早稲田実がこの年の夏の甲子園大会で準優勝した松本商を破りました。これが早稲田実にとって全国規模の大会で初めての優勝となりました。

野球競技の報告は59ページに及び、他の競技に比べ、多くのページが割かれています。図書室には第1回から第14回までの報告書がそろっていますので、ぜひ図書室でご覧ください。

司書 茅根 拓

| 開催年 | 正式名称 | 優勝チーム | | | | その他 |
|-------------|------------|--------|-------|-------------|-------|--|
| | | 大学の部 | 参加チーム | 中等学校の部 | 参加チーム | |
| 大正13年（第1回） | 明治神宮競技大会 | 稲門倶楽部 | 6 | 早稲田実業 | 8 | 大学の部は各大学を中心としたクラブチーム戦。 |
| 大正14年（第2回） | 明治神宮競技大会 | 稲門倶楽部 | 7 | 神港商業 | 8 | 大学の部は各大学を中心としたクラブチーム戦。 |
| 大正15年（第3回） | 明治神宮体育大会 | 慶應義塾大学 | 6 | 和歌山中学 | 8 | 大学の部はこの年から大学新人戦になる。 |
| 昭和2年（第4回） | 明治神宮体育大会 | 早稲田大学 | 6 | 愛知商業 | 8 | 社会人の部が設けられた。 |
| 昭和4年（第5回） | 明治神宮体育大会 | 慶應義塾大学 | 2 | 神港商業 | 8 | 大学の部は早慶戦の1試合のみで、天覧試合であった。 |
| 昭和6年（第6回） | 明治神宮体育大会 | 早稲田大学 | 5 | 広陵中学 | 8 | |
| 昭和8年（第7回） | 明治神宮体育大会 | 明治大学 | 7 | 中京商業 | 8 | 中等学校の部の決勝戦は夏の甲子園大会の準決勝と同じ中京商と明石中で行われた。 |
| 昭和10年（第8回） | 明治神宮体育大会 | 明治大学 | 8 | 呉港中学 | 8 | |
| 昭和12年（第9回） | 明治神宮体育大会 | 日本大学 | 8 | 熊本工業 | 8 | |
| 昭和14年（第10回） | 明治神宮国民体育大会 | 早稲田大学 | 4 | 海草中学 | 4 | 高等専門学校部と一般の部も併せて行われ、前者は横浜専門、後者は太田雄飛倶楽部が優勝。 |
| 昭和15年（第11回） | 明治神宮国民体育大会 | 早稲田大学 | 9 | 海草中学 | 8 | 高等専門学校部と一般の部も併せて行われ、前者は横浜高商、後者は全京城が優勝。 |
| 昭和16年（第12回） | 明治神宮国民体育大会 | 早稲田大学 | 4 | 海草中学 | 4 | 一般の部は満鉄。 |
| 昭和17年（第13回） | 明治神宮国民練成大会 | 立教大学 | 4 | 海草中学 | 4 | 一般の部は函館大洋倶楽部。 |
| 昭和18年（第14回） | 明治神宮国民練成大会 | | | 野球が行われていない。 | | |

● 維持会員を募集しています！ ●

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

▶ 1. 会員特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊) 送付します。
- (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。

*新個人会員には上記の特典のほか、「野球殿堂 1959-2009」を進呈します。(ジュニア会員を除く)

*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

▶ 2. 会員の種類と会費

年会費(4月~翌年3月迄)

法人会員1口 10万円 個人会員1口 1万円

ジュニア会員(小・中学生) 2,000円

ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

| ご入会月 | 4月~9月 | 10月~12月 | 1月~3月 |
|------------|---------|---------|--------|
| 維持会費(個人会員) | 10,000円 | 5,000円 | 2,000円 |

▶ 3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ：博物館 業務部

皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

「バッターボックス体験」映像リニューアル！

ダルビッシュ投手や館山投手と対戦しよう！

小・中学生に大人気の「バッターボックス体験」コーナーの映像を次の8投手にリニューアルしました。(今年のオールスター第1戦(札幌ドーム)に出場した投手です。)

| セ・リーグ | | パ・リーグ | |
|--------------|--|-----------------|--|
| 館山 昌平 (ヤクルト) | | ダルビッシュ 有 (日本ハム) | |
| 山口 鉄也 (巨人) | | 田中 将大 (楽天) | |
| 川井 雄太 (中日) | | 岸 孝之 (西武) | |
| 三浦 大輔 (横浜) | | 武田 久 (日本ハム) | |

〈バッターボックス体験〉



動きのある映像と音響による演出により、バッターボックスに立ってプロ野球投手のボールに向かう感じを体感してもらうことをコンセプトに、2000年に設置しました。今回は、9年ぶりのリニューアルとなります。

床面に描かれたバッターボックスに利用者が立つと、正面奥の大型スクリーンにプロ投手の映像が現れ、キャッチャー(人形)に向かって投球する映像が流れます。映像のボールのスピードに合わせて、ウレタン製のバットを振り、スイングのタイミングが合えば打球音が、振り遅れた場合はキャッチャーミットにボールが収まる音がします。(博物館の入館料だけでご利用できます)

▶ 評議員の異動

〔新任〕 下田 邦夫氏 (社団法人日本野球機構事務局長)

〔退任〕 長谷川 一雄氏

▶ 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日~9月30日 AM10時~PM6時

10月1日~2月末日 AM10時~PM5時
(入館は閉館の30分前まで)

入館料 大人 500円(300円) ()は
小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)

年末年始(12月29日~1月1日)

〔11月・12月・1月の休館日〕

11月 2日・9日・16日・30日

12月 7日・14日・21日・28日~31日

1月 1日・18日・25日

*年末・年始休館は12月28日~1月1日です。

● 編集後記

現在、博物館では2010年の野球殿堂入りが決まる表彰委員会の準備を進めています。来年1月中旬ごろに殿堂入記者発表が行われる予定です。

Newsletter Vol.19 / No.3

2009年10月25日発行

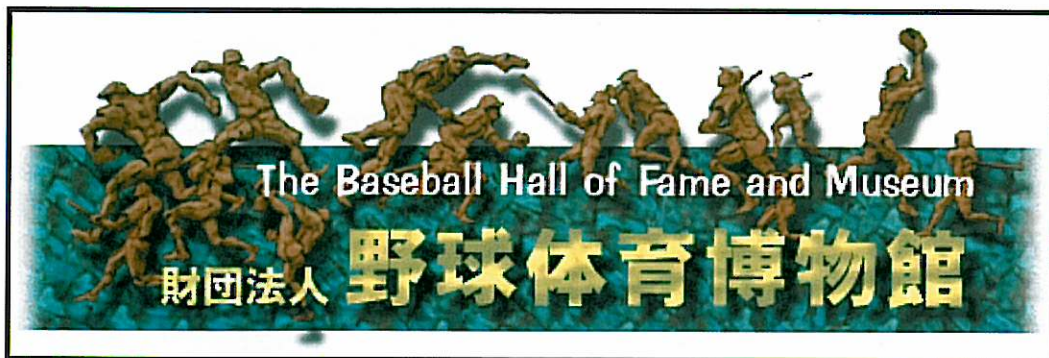
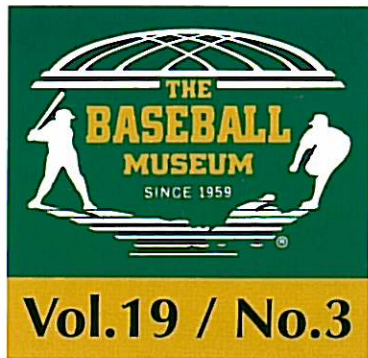
編集・発行 財団法人 野球体育博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>

定価 100円



リレー随筆(38)

競技者表彰委員 江尻 良文 (夕刊フジ)

9年連続シーズン200本安打のメジャー新記録を樹立したマリナーズ・イチロー。これで、現役引退後の将来の野球殿堂入りが確実視されるという。偉大なメジャーリーガーとして日本人が認められ、野球殿堂入りすれば、快挙で日本国中が祝福するだろう。メジャー30球団の中で日本人メジャーリーガーが現在、過去において在籍していない球団を探すのが大変なくらいな国際化の時代だ。イチローが米国で野球殿堂入りするのならば、日本の野球殿堂にも日本球界に偉大な足跡を残した外国人選手が入って欲しい。

実働6年。首位打者、本塁打王、打点王各2度。三冠王2度。「史上最強の助っ人」と言われる、元阪神のバース氏が、惜しいところで殿堂入りを逃している。過去に数々の伝説の外国人選手がいた。メジャー流の激しいスライディングを日本へ輸入した元阪急のスペンサー氏。ヤクルト監督時代の野村ID野球のお手本になったといわれる「シンキング・ベースボール」を浸透させた元南海のプレイヤー氏。今季の巨人も4番・ラミレス抜きでは、V9以来のリーグ3連覇は達成できなかっただろう。ヤクルト時代から巨人に移籍した昨年までに本塁打王1回、打点王3回を獲得している。

メジャーリーグに日本人選手が欠かせないように、日本のプロ野球界にも外国人選手は以前にもまして必要不可欠な存在になっている。多大な貢献をした外国人選手の殿堂入りが当たり前になればいいと思う。が、そのためには各球団がバース氏のような人材発掘の努力をしなければ話にならない。現在は各球団が外国人選手を使い回している。リスクを伴う新しい外国人選手を獲得するよりも、日本球界を知っている方が使い勝手が良い。そういうイージーな外国人選手獲得法の球団が多すぎる。

他球団の主力選手をマネーゲームで横取りするような球団まであるが、論外だろう。そんなことをするから、外国人選手は日本球界の足元を見る。現状のままでは、ジャパニーズ・ドリームを夢見て、必死になってプレーする、野球殿堂入りにふさわしいパイオニア的な存在は出てこなくなるだろう。

野球殿堂入りに関してはもう一つ思うことがある。「本人が健在なうちにぜひ殿堂入りしてもらいたい」ということだ。かつては「野球殿堂入りは神棚にまつられるようなもの」といった考え方があり、年功序列的な不文律が見え隠れしていた。現在はそう極端ではなくなったが、それでも「亡くなる前に殿堂入りしてもらいたかった」というケースは少なくない。09年の野球殿堂入りの『じゃじゃ馬』の異名を持つ青田 昇氏、元日本ハムの大社 義規氏もそうだった。

1年間だけだが、初代日本ハム担当記者として大社氏を取材して驚いたのは、二軍の選手まで全員知っており、練習まで見に行く熱心さだった。「選手は全員、自分の子供のようなものやからな。親御さんから預かっておるんやから、大事にせないかん」と明言、有言実行していた。現在の球団オーナーたちには、残念ながら大社氏のような情熱が感じられない。オーナー会議を取材しても失望させられる。球界の将来のビジョンなどなく、目先のお金儲けしか頭にないサラリーマン・オーナーが多すぎる。残念ながら野球殿堂入りに値する人は見当たらない。

今後は野球殿堂入りが単なる名誉で終わらずに、野球人の何よりの励みになり、その後、球界に恩返しできるチャンスがある。それが理想だと思う。「健在なうちに殿堂入りを」と願うのはそのためだ。